

中花たちばな

『夢や目標に向かい、自分とふるさとの未来を切り拓く子』

豊岡市立豊岡南中学校学校だより

令和7年11月10日

No.8 生徒数 545 名

全国学力・学習状況調査の結果と対応策

今年度の全国学力・学習状況調査は、4月17日（木）に小学校6年生と中学校3年生を対象に全国の小中学校で実施されました。中学校3年生については、「国語」「数学」「理科」の学力調査と生活習慣や学習習慣等に関する「質問紙調査」が実施されました。この調査の目的は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態を明らかにすることにより、今後の指導改善に役立てることです。本校の結果や分析を踏まえた改善点についてまとめましたので、その概要をお知らせいたします。

学力調査（国語・数学・理科）の結果と傾向

学力調査における本校の正答率は、国語、数学、理科とも全国や県の平均と比較して「同程度」でした。また、「選択式」や「短答式」の問題に比べ、文章で解答する「記述式」の問題で無回答率が高い傾向が見られました。しかし、文章で解答する問題に対して、「全ての書く問題で最後まで回答を書こうと努力した」と答えている生徒が、国語で約8割、数学でも約7割あり、最後まであきらめずに回答しようとしている生徒が多いことが分かりました。

教科	国語	数学	理科
全国との比較（平均正答率）	同程度	同程度	同程度
県との比較（平均正答率）	同程度	同程度	同程度

※正答率の差が5%以内は有意性がなく同程度とみなします。

【国語】資料がどのような目的や意図で用いられているかを考える問いについては、全国平均より上回っているものが多い。一方で、複数の資料や条件の下で文章を書くことや、漢字や言葉の「知識」に関して課題があることが分かった。

【数学】無解答率は、全国平均と比べて低く、生徒が問題に主体的に取り組もうとしている姿勢が見られた。一方で、「説明する」「証明する」といった問題や、問題文から必要な情報を選択し、整理する力に課題があることが分かった。4領域のうち、図形分野を苦手としている生徒が多いことも分かった。

【理科】条件付きの文章を記述する力が弱く、何が問われているのかを正しく理解し、実験データや日常生活の事象などを根拠にして、論理的に文章を構成することに課題があることが分かった。

各教科における今後の手立て

【国語】単元の最後には学習した内容を活用して文章を書く時間を設けているが、条件を複数与えたり、資料を読み取らせたりするといった限定された中での記述にはつながっていなかったと考えられる。そこで、文章を書かせるときには比較できる文章や様々な資料を提示し、複数の条件の中で文章を書く活動を取り入れていく。

【数学】問題文に何が書いてあるか、いま何を求めるのかを全員で確認してから、問題を解くなどの工夫をする。さらに、「言葉を使って説明」→「文字を使って説明」→「人に伝えて説明」と段階を踏みながら練習させる。また、様々な図形の証明問題を解き、多面的・多角的に見る力をつけていく。

【社会】導入時に、対話を通して資料から気づきを得られるよう促す。公民分野では、今実際に生活している国民としての視点を文章で表現する機会を設ける。

【理科】観察や実験など直接的な体験活動を通して、事象や理論の関連付けを行い、規則性や法則性を見出させたり、比較・分類・関連付けといった思考する場を設定し、論理的思考を促したりする授業を行う。また、ロイロノートを活用し、個人の意見を書く機会をとっていく。

【音楽】音楽的な技術に偏重しないようにする。その上で、鑑賞や歌唱教材に対する曲の背景と音楽的要素の関わりが結びつくように、資料を提示しながら、表現方法を書かせたり、話したりする活動を行う。

【技術・家庭】自分で答えを見いだす問いの設定の工夫や、答えではなく、根拠を問うようにする。また、知識を根拠にして実習ができるように、なぜそうすべきなのかを考えさせる場面を設定する。さらに、失敗を成功するための試行錯誤という意識に変えるとともに、作業工程や評価基準を明確化にして、意欲をもってトライできる環境づくりを行う。

【美術】制作前の主題の設定において、目標をより細かくし、達成感を味わわせる瞬間を増やす。また、制作時間と並行して鑑賞を行い、鑑賞の時間を通して、生徒の構想や主題を考えさせる。さらに、グループワークによる他生徒の取り組みを知る時間や、生徒作品を鑑賞する時間を設ける。

【保健体育】グループワークや意見交換を取り入れ、「他者と学ぶことの意味」や「学び合いの楽しさ」を実感できる環境をつくる。目標を明確に示し、課題やその解決へのポイントを生徒自身で考えやすくとともに、評価を明確に示し「見通し・達成度・次への課題」を自分で捉えられるようにする。

また、ICT（タブレット・動画など）を使って、フォームや戦術を言語化・図示化しながら説明する活動を取り入れる。保健分野ではレポート作成等で「根拠のある主張」と「資料活用」に重点を置く。

【英語】帯活動の充実とフォニックス（文字の音）、単語ミニテスト、既習文法を用いた自己表現活動（英作文・会話など）を取り入れる。また、Unit・Lesson ごとにある「Speak Talk」「Write」を活用する。

生活習慣や学習習慣に関する生徒質問紙調査から（一部抜粋）

※数値は肯定的な回答の割合

【全国平均と比較して、◎…5p以上上回っている ○…上回っている △…下回っている ▲…5p以下下回っている】

	質 問 項 目	全国%	本校%
①	○朝食を毎日食べていますか	91.2	94.7
②	○毎日同じくらいの時刻に寝ていますか	81.0	83.6
③	△毎日同じくらいの時刻に起きていますか	92.6	90.2
④	○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.2	96.4
⑤	○自分には、よいところがあると思いますか	86.2	87.2
⑥	○将来の夢や目標を持っていますか	67.5	70.7
⑦	◎困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	73.2	82.4
⑧	○先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	83.8	86.6
⑨	○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	95.9	97.5
⑩	○人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.6	98.2
⑪	◎学校に行くのが楽しいと思いますか	86.1	92.7
⑫	◎地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	75.3	80.5
⑬	▲平日(月～金)1日当たり 1 時間以上家庭学習(塾を含む)をしている	62.9	55.4
⑭	△休日(土・日・祝)1日当たり 1 時間以上家庭学習(塾を含む)をしている	57.9	54.3
⑮	▲平日(月～金)1日当たり 30 分以上読書(電子書籍を含む)をしている	21.4	11.6

質問①では、朝食を毎日食べる生徒が、昨年度と比較して5%以上増加しています。朝食は脳と体に栄養を補給し健康の源となるので、必ず毎朝、食べてほしいです。質問④⑦⑧は、教職員が生徒に寄り添い、生徒の声に耳を傾けることで、生徒たちが何でも話せる環境が整ってきたからだと推測しています。引き続き、多くの目で生徒を見守り、生徒理解を心掛けたサポート体制の充実に努めます。質問⑤⑪は、めざす学校像として「生徒も職員も、登校することを楽しみに思える学校づくり」を継続してきた成果だと感じています。今後も生徒たちへの「肯定的なかかわり」を大切にしていきたいです。質問⑫は、全国平均を5%近く上回りました。今後も「教科学習」と「ふるさと教育」の連動に努めていきます。

質問⑬～⑮の調査結果から、平日、休日ともに「家庭学習」の時間が全国平均より少なく、かつ読書の時間も少ないことが分かりました。お子様の健全な成長と学力向上のために、学校とご家庭とで連携しながら取り組んでまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。